

医学系研究に関する情報公開について

西暦 2023 年 06 月 14 日作成

下記の研究は、福岡リハビリテーション病院の医療倫理委員会から承認され、病院長の許可を得て実施するものです。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	Triple-row 法を用いた肩鏡視下腱板修復術の治療成績
当院の研究責任者 (所属)	花田弘文(整形外科)
研究期間	病院長許可日 ~ 西暦 2024 年 03 月 31 日
調査データの該当期間	西暦 2017 年 04 月 01 日 ~ 研究機関の長の許可日
研究対象となる方	福岡リハビリテーション病院で triple-row 法で肩鏡視下腱板断裂手術を受けられた方
研究の意義と目的	<p>肩腱板断裂は肩機能障害の主な原因である。肩腱板断裂に対する外科的治療法は、より良い臨床成績を求めて改良されてきた。Suture anchorと呼ばれる糸が備わったアンカーを骨に打ち込み、そのアンカーの糸を腱板に通して締結するアンカーテクニクが、現在広く用いられている。アンカーテクニクは、アンカーの設置位置、設置数、アンカー糸の架橋の有無などで、single-row 法、double-row 法、suture-bridge 法など様々な縫合方法が用いられている。歴史的には、single-row 法の改良版が double-row 法であり、double-row 法の改良版が suture-bridge 法といえる。しかし残念ながら、術後再断裂率は single row 法や double-row 法と suture-bridge 法との間に統計学的有意な差はなく、suture-bridge 法は当初期待されたほど良好な治療成績をもたらさなかった。1)-3)近年、single-row 法と suture-bridge 法を組み合わせた triple-row 法の良好な臨床成績が報告されている。4)-6)しかしいまだその臨床成績の報告は少なく、術後 MR 画像検査で再断裂の評価を行った研究は1編のみである。6)</p> <p>【文献】</p> <p>1). Kim KC, Shin HD, Lee WY, Han SC. Repair integrity and functional outcome after arthroscopic rotator cuff repair: double-row versus suture-bridge technique. Am J Sports Med. 2012;40(2):294-9.</p> <p>2). Hein J, Reilly JM, Chae J, Maerz T, Anderson K. Retear Rates After Arthroscopic Single-Row, Double-Row, and Suture Bridge Rotator Cuff Repair at a Minimum of 1 Year of Imaging Follow-up: A Systematic Review. Arthroscopy. 2015;31(11):2274-81.</p>

	<p>3). Yamakado K. A Prospective Randomized Trial Comparing Suture Bridge and Medially Based Single-Row Rotator Cuff Repair in Medium-Sized Supraspinatus Tears. <i>Arthroscopy</i>. 2019;35(10):2803-13.</p> <p>4). Ostrander RV, McKinney BI. Evaluation of footprint contact area and pressure using a triple-row modification of the suture-bridge technique for rotator cuff repair. <i>J Shoulder Elbow Surg</i> 2012;21:1406-12.</p> <p>5). Buckup J, Smolen D, Hess F, Sternberg C, Leuzinger J. The arthroscopic triple-row modified suture bridge technique for rotator cuff repair: functional outcome and repair integrity. <i>J Shoulder Elbow Surg</i>. 2020 Feb;29(2):308-315.</p> <p>6). Tanaka M, Hanai H, Kotani Y, Kuratani K, Koizumi K, Hayashida K. Triple-Row Technique Confers a Lower Retear Rate Than Standard Suture Bridge Technique in Arthroscopic Rotator Cuff Repairs. <i>Arthroscopy</i>. 2021;37(10):3053-61.</p>
研究の方法	2018年4月～研究機関の長の許可日までに当院および福岡リハビリテーション病院で Triple-row 法で肩鏡視下腱板修復術を行った症例の既存の臨床データを後ろ向きに収集し解析する。
研究に用いる試料・情報	身体所見(年齢、性別、利き手側、現病歴、既往歴、生活歴、痛み、筋力、関節可動域)・画像検査所見(単純X線、単純MRI)、臨床スコア
外部への試料・情報の提供	あり(福岡大学病院)
個人情報の取り扱い	利用する情報は、匿名化(どのデータが誰のものかをわからなくすること)をします。個人情報を厳重に保護し、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も個人が特定されない形式で行います。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反にある企業等はありません。
お問い合わせ先	福岡リハビリテーション病院 所属 整形外科 担当者: 花田弘文 電話: 092-812-1555(代表) 対応可能時間 平日 9:00～17:00

医学系研究に関する情報公開について

西暦 年 月 日作成

下記の研究は、福岡リハビリテーション病院の医療倫理委員会から承認され、院長の許可を得て実施するものです。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	
当院の研究責任者 (所属)	
研究期間	院長許可日 ~ 西暦 年 月 日
調査データの該当期間	西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日
研究対象となる方	当クリニックにて、~ を施行した方
研究の意義と目的	
研究の方法	
研究に用いる試料・情報	【情報】 診療録、検査データ、画像データ等の項目を記載する
外部への試料・情報の提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報は、匿名化(どのデータが誰のものかをわからなくすること)をします。個人情報を厳重に保護し、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も個人が特定されない形式で行います。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反にある企業等はありません。
お問い合わせ先	福岡リハ整形外科クリニック 所属 _____ 担当者: _____ 電話: 092-811-8011(代表) 対応可能時間 平日 9:00~17:00